



大桑村 防災のしおり

OKUWA VILLEGE HAZARD MAP



HAZARD
MAP

大桑村 防災のしおり

土砂災害・洪水編

はじめに。

大桑村は、長野県の南西部、木曾谷の南部に位置しており、古くから林業が盛んに行われ84パーセントが森林という緑豊かな村です。

南駒ヶ岳をはじめとする中央アルプスが村の東側を占め、西側にも高山帯が広がります。

これらの非常に急峻な山々の水が北東から南西に縦貫する木曾川を中心に、伊奈川、阿寺川など多くの支流へ急角度で流れ込んでいます。また大桑村は多雨地帯であり、降水量は夏に多く、冬少ないという気候が特色です。夏になると山の斜面が熱せられ、気温の不均衝がおき対流性の雲ができます。そのため時に急激な上昇気流によってかみなり雲が作られ豪雨をもたらすのです。

過去100年間、上記の地形や気象条件により大桑村で発生した自然災害は、木曾川支流の急傾斜地に多く、死者・行方不明者74名を出した大正12年の大水害をはじめ台風被害などにより大きな犠牲を出してきました。このような被害を防ぐため国、長野県、大桑村では様々な治水治水事業を積極的に行ってきました。それでもなお自然の猛威というのは時に人々の暮らしを脅かし被害をもたらします。いつ何時どのように起こるかわからない災害のために、わたしたちは日頃から防災について考えておかなければなりません。

通勤通学路がいざという時避難経路になるかもしれません。普段通っている会社や学校にある道具が災害時役に立つかもしれません。たまたま大事にとっておいた缶詰や保存食が非常食になるかもしれません。普段散歩したり、走っているランニングコースが実は土砂災害の特別警戒区域に指定されているかもしれません。そんな日常の、「もしも災害が起きたら」や「いざという時の心構え」を考えることは一番身近な防災と言えます。

大事な家族、親しい友人、お世話になっている隣近所の方たち、災害が起これば誰もが被災者です。お互いで出来ることを行い、協力しましょう。

この防災のしおりには、土砂災害警戒区域や避難施設をはじめ、災害が起きる前の防災知識や起きたときの対処法などが載っています。日頃から読んでいざという時は冷静に行動できるようにしましょう。

もくじ

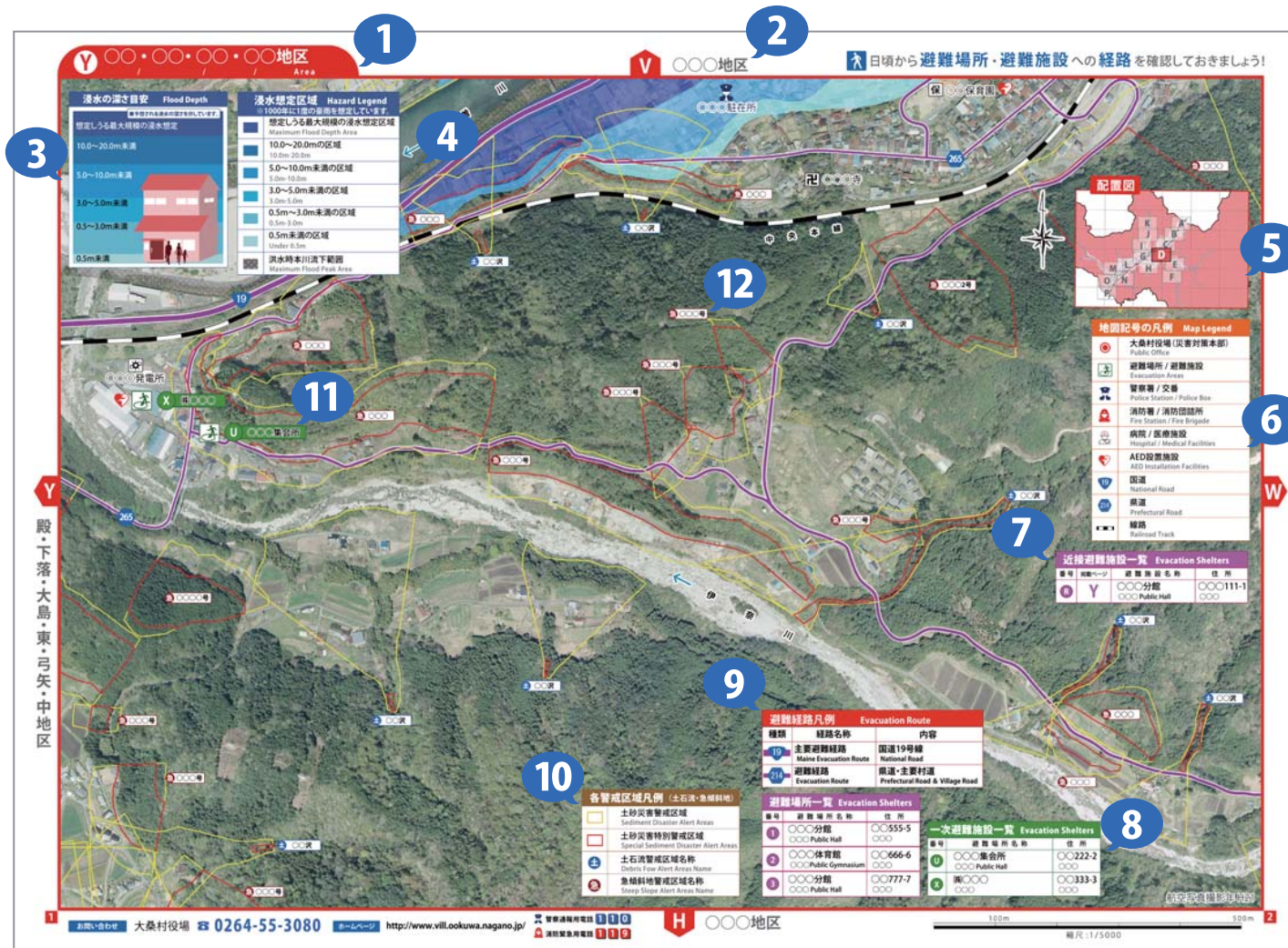
- はじめに・もくじ・・・・・・・・・・1ページ
- ハザードマップの使い方・・・・・・・・2ページ
- ⇒ いざというときの知識
- 土砂災害について・・・・・・・・・・3-4ページ
- 洪水について・・・・・・・・・・5-6ページ
- 避難計画・避難行動・・・・・・・・7-8ページ
- 情報伝達・取得・・・・・・・・9-10ページ
- 防災の心得・・・・・・・・11-12ページ
- 避難施設一覧①・・・・・・・・13-14ページ
- 避難施設一覧②・・・・・・・・15-16ページ
- 配置図・・・・・・・・17-18ページ

⇒ ハザードマップ

- A 上郷地区・・・・・・・・19-20ページ
- B 上郷・和村地区・・・・・・・・21-22ページ
- C 須原町部・和村地区・・・・・・・・23-24ページ
- D 橋場・越坂・東・下条地区・・・・・・・・25-26ページ
- E 田光・下条・大野地区・・・・・・・・27-28ページ
- F 大野地区・・・・・・・・29-30ページ
- G 殿・下落・大島・東・弓矢・中地区・・・・31-32ページ
- H 西・中・東地区・・・・・・・・33-34ページ
- I 小川地区①・・・・・・・・35-36ページ
- J 小川地区②・・・・・・・・37-38ページ
- K 小川地区③・・・・・・・・39-40ページ
- L 振田・上在地区・・・・・・・・41-42ページ
- M 野尻町部・川向地区・・・・・・・・43-44ページ
- N 野尻町部・・・・・・・・45-46ページ
- O 阿寺・下在地区①・・・・・・・・47-48ページ
- P 阿寺・下在地区②・・・・・・・・49-50ページ

- 大桑村災害新聞①・・・・・・・・51-52ページ
- 大桑村災害新聞②・・・・・・・・53-54ページ
- 大桑村災害新聞③・・・・・・・・55-56ページ
- 防活メモ・・・・・・・・57-58ページ
- わが家の防災メモ・・・・・・・・裏表紙

ハザードマップの使い方



ハザードマップの見方

ハザードマップには多くの情報が掲載されています。自分の住んでいるエリアだけでなく、村全体の危険箇所を知ることにも防災に役立ちます。以下はハザードマップに載っている情報を説明したものです。

- 1 マップ番号と地区名
- 2 隣接地区名
- 3 浸水の深さ目安
- 4 浸水想定区域
- 5 配置図
- 6 地図記号の凡例
- 7 隣接避難施設一覧
- 8 一次避難施設
- 9 避難施設一覧・避難経路凡例
- 10 各警戒区域凡例
- 11 避難施設マーク
- 12 警戒区域名称

⇒ ハザードマップの閲覧ポイント

- POINT 1 配置図、マップ番号と地区名をもとに自分の家を探しましょう。
- POINT 2 自分の家から避難施設までの経路を探しておきましょう。
- POINT 3 最寄、または家族で決めてある避難場所を見つけましょう。
- POINT 4 防災知識を身に付けるために「いざという時の知識」も読んでおきましょう。
- POINT 5 ハザードマップをもとに実際に避難場所や避難経路を歩いてみましょう。

土砂災害

いざという時に備えて！
見よう、状況！聞こう、情報！

土砂災害とは？

土砂災害とは、**大雨**や**地震**などが引き金となって、山やがけが崩れたり、水と混じり合った土や石が川から**流れ出たり**、火山の噴火などによって私たちの命や財産が脅かされる、自然の災害です。災害現象の主なものとして、「**土石流**」「**地すべり**」「**がけ崩れ**」などがあります。

土砂災害の種類



土石流

山や川の石や土砂などが、大雨により水と一緒に激しく流れ甚大な被害を及ぼします。その流れの速さは時速 20km ~ 40km にも達し、人家や農耕地をあっという間に飲み込みます。

予兆 ● 山鳴りがする ● 川が急に濁り流木が混ざる ● 雨が降り続くのに川の水位が下がる。



地すべり

斜面の一部あるいは全部が地下水の影響と重力によってゆっくりと斜面下方に移動する現象のことをいいます。一般的に移動土塊量が大きいため、甚大な被害を及ぼします。一旦動き出すとこれを完全に停止させることは非常に困難です。

予兆 ● 沢や井戸の水が濁る ● 地面にひび割れができる ● 斜面から水がふき出す



がけ崩れ

地中にしみ込んだ水分が土の抵抗力を弱め、雨や地震などの影響によって急激に斜面が崩れ落ちることをいいます。がけ崩れは、突然起きるため、人家の近くで起きると逃げ遅れる人も多く死者の割合も高くなっています。

予兆 ● がけに割れ目が見える ● がけから水が湧き出ている ● がけから小石が落ちてくる。

出典：国土交通省

土砂災害の予兆を見たら・聞いたら

土砂災害の危険が迫っています！

できるだけ早く周りの人と**安全な場所に避難**するとともに各市町村など**最寄の公的機関にご連絡**をお願いします。

土砂災害防止法

土砂災害から住民の皆さんの生命を守るため、土砂災害のおそれのある区域を明らかにし、危険の周知、警戒避難体制の整備、住宅等の新規立地の抑制、既存住宅の移転促進等のソフト対策を推進する法律です。

基礎調査の実施

土砂災害により被害を受けるおそれのある区域の地形、地質や土地利用状況について調査します。

基礎調査に基づき土砂災害のおそれのある区域等を指定します。

土砂災害警戒区域

土砂災害のおそれがある区域

土砂災害特別警戒区域

土砂災害警戒区域のうち、建築物に損壊が生じ、住民に著しい危害が生じるおそれがある区域

出典：国土交通省

土砂災害に関する警報注意報発令基準

	種別	一時間雨量	大桑村土壌雨量指数
大雨 右記の基準に達することが予想された場合	注意報	40mm	133 以上
	警報	70mm	154 以上
土砂災害警戒情報	大雨警報発表中に土砂災害発生危険性が高まったとき、市町村単位で発表		

※土壌雨量指数・・・土壌雨量指数とは降雨による土砂災害発生危険性を表している指数で、土壌中にたまっている雨水の量を示す指数です。

出典：大桑村

大雨の降り方にご注意を！

	10-20mm 未満	20-30mm 未満	30-50mm 未満	50-80mm 未満	80mm 以上
一時間雨量 (mm)					
予報用語	やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
人の受けるイメージ	ザーザーと降る	どしゃ降り	バケツをひっくり返した様に降る	滝のように降る (ゴゴゴと降り続く)	息苦しくなるような圧迫感で恐怖を感じる
人への影響	地面からの跳ね返りで足元がぬれる	傘をさしてもぬれる		傘はまったく役に立たなくなる	
災害発生状況	この程度の雨でも長く続く時は注意が必要	側溝や下水、小さな川があふれ、小規模の崖崩れが始まる	山崩れ、崖崩れが起きやすくなり危険地帯では避難の準備が必要	山間部では土石流などの土砂災害が起きる危険が高くなる	雨による大規模災害の発生するおそれが強く、厳重な警戒が必要

出典：気象庁

いざという時の心構え

雨に注意しましょう

土砂災害の多くは雨が原因で起こります。長雨や大雨で危険だと思ったら、早めに避難しましょう。1時間に20ミリ以上、または降り始めてから100ミリ以上の降雨量になったら十分な注意が必要です。



土石流からの逃げ方

土石流は速度がとて速いため、流れを背にして逃げたのでは追いつかれてしまいます。万が一、土石流が発生してしまったときは土砂の流れる方向に対して直角に逃げるようにしましょう。



避難場所を知っておきましょう

日頃から家族全員で避難場所や避難する道順を決めておきましょう。災害が起きた時、家族全員が一緒にいるとは限りません。そんな時でもあらかじめ避難場所を決めておけば安心です。



出典：国土交通省

土砂災害情報の入手先

ホームページから入手

災害の危険性が迫っている状況をインターネットでも閲覧することができます。素早い情報取得があなた自身や家族を災害から守る大きな武器となります。

詳しくは、[情報伝達・取得ページ](#)へ

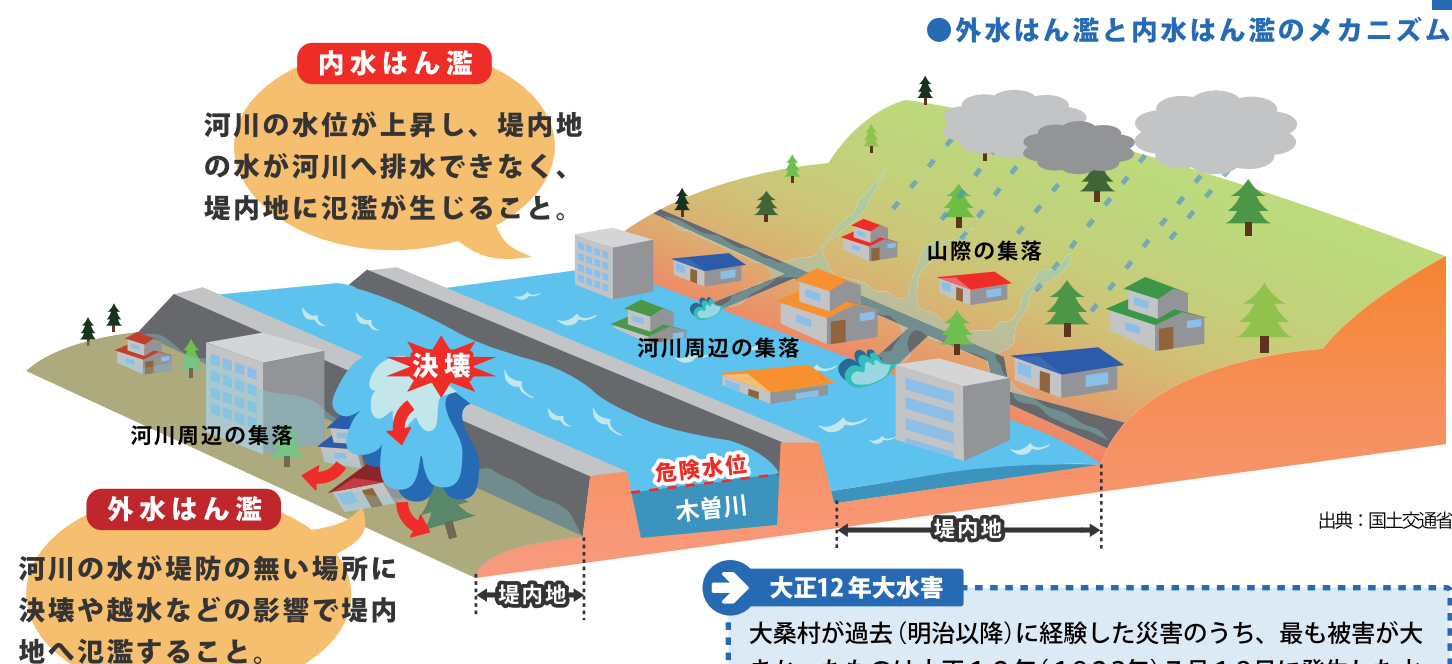
洪水

正確な情報取得が命綱。
迅速かつ冷静な避難行動を！

洪水とは？

大雨や融雪などによって、河川の水位が普段より著しく高くなり、流量が著しく増えたりすることを洪水と呼びます。一般には川から水があふれ、はん濫することを洪水と呼びます。また、洪水によるはん濫や都市部などで大雨の際に、下水溝や用水溝の排水能力が追いつかず、住宅や田畑が水につかることを浸水と呼びます。

洪水について知ろう



大正12年大水害

大桑村が過去（明治以降）に経験した災害のうち、最も被害が大きかったものは大正12年（1923年）7月18日に発生した水害です。長雨と豪雨により村内各地で発生した土石流に巻き込まれ死者行方不明74人、重傷者8人、軽傷者25人の被害があったと伝えられています。

警報・注意報が出たら注意しましょう

大雨警報 …大雨により重大な災害が起こるおそれがあると予想したときに発表します。対象となる災害として、浸水による災害や土砂災害などがあり、それぞれ、大雨警報（浸水害）、大雨警報（土砂災害）と対象災害を明示して発表します。

大雨注意報 …大雨により災害が起こるおそれがあると予想したときに発表します。対象となる災害として、浸水による災害や土砂災害などがあります。

洪水警報 …大雨、長雨、融雪などで河川が増水し、重大な災害が起こるおそれがあると予想したときに発表します。

洪水注意報 …大雨、長雨、融雪などにより河川が増水し、災害が起こるおそれがあると予想したときに発表します。

	種別	一時間雨量	大桑村流域雨量指数基準
洪水 右記の基準に達することが予想された場合	注意報	40mm	木曽川流域=45 殿小川流域=7 伊奈川流域=16
	警報	70mm	木曽川流域=57 殿小川流域=9 伊奈川流域=21
浸水警報	大雨・長雨などの現象に伴う浸水により、重大な災害が起こる恐れがあると予測される場合		

※流域雨量指数 …降雨による洪水災害発生の危険性を示す指数で対象となる地域・時刻に存在する流域の雨水の量を示す指数

出典：大桑村

木曽川の河川水位と避難情報

防災上重要な河川について、河川が増水やはん濫に対する水防活動の判断や住民の避難行動の参考となるように、国が管理する河川は国土交通省河川局と気象庁が、都道府県が管理する河川は都道府県と気象庁が、共同して指定河川洪水予報を発表しています。



絶対やめよう

- 川が増水しているときは流れが速く非常に危険ですので近寄らないようにしましょう。
- 大雨時に川や用水路の様子を見に行ったことで流され被害に遭う場合があります。絶対にやめましょう。

出典：国土交通省・気象庁・長野県

浸水・土砂災害時に避難するときの注意点



足元に注意

浸水している場合には下水道のマンホールや側溝等への転落の恐れがあるので注意しましょう。



浸水していない場所を歩く

避難中はなるべく2人以上で浸水していない場所を歩きましょう。



なるべく歩いて避難

自動車が水に浸かると動けなくなったり、水圧でドアが開かなくなり危険です。自動車での避難は極力避けましょう。



ロープで繋がって

避難しているときにはぐれないようお互いの体をロープで繋いでおきましょう。



危険を感じたら高台へ

避難途中で急な増水など不足の事態が起きたら、小高い丘や二階建てなど以上の高台に逃げましょう。



助け合いましょう

外国の方、近所のお年寄り、子供、病気の人は早めの避難が重要です。皆さんで協力し合いましょう。

出典：国土交通省

洪水情報の入手先 → 詳しくは、情報伝達・取得ページへ

避難計画・避難行動

避難行動は災害の起こる前から始まっています。
日々の準備と早めの避難を心がけましょう！

すばやい防災行動をとるために

● ハザードマップでご自身の住む地域を確認しましょう

浸水想定区域や土砂災害警戒区域などの危険箇所は特に注意しましょう。

● 避難施設までの避難ルートを決めておきましょう

避難ルートを決めたら実際に歩いて確認することも大切です。見通しのきかない道路や蓋のない側溝など、危険な場所を確認しより安全に防災行動を行えるようにしましょう。

ハザードマップは本冊子のハザードマップ配置図 (P17-18) より
ご自身の地域を探して、実際に確認してみましょう。



● 災害情報を確認して、早めに行動しましょう

大型の台風が接近してきた時や大雨が降ってきた時には、テレビ・ラジオ・スマホ等から正確な情報を集めます。

また、屋外の物品などの整理や固定なども早めにとりかかるといいます。場合によっては台風や大雨の影響の少ない親戚や知人、旅館等に避難することも考えておきましょう。

自宅周辺のがけや斜面等に災害の兆候が現れたら、速やかに避難しましょう。

土砂災害については本冊子の (P3-4) に掲載してあります。
洪水については本冊子の (P5-6) に掲載してあります。



● 避難はためらわず早めに行いましょう

ご高齢の方や障がいをお持ちの方など、避難に時間の必要な方は移動時間を考え早めに自主避難することも大切です。災害時の夜間の移動は危険性も大きくなるので、明るい間に避難を行うよう心がけましょう。

また避難指示などが風や雨などで聞き取れないことや、急な状況の変化で発令が遅れることもあり得ます。危険を感じたら避難指示を待たず、すぐに避難しましょう。

情報伝達・取得については本冊子 (P9-10) に掲載しております。



● 避難施設への移動が危険な時は垂直避難を

垂直避難とは、建物屋内の2階以上の安全を確保できる高さに移動することを言います。

本来であれば、災害の発生する前に避難施設へ避難を済ませることが望ましいのですが、大雨の降る夜間などは、道路上の亀裂や側溝などが見えにくくなります。こうした避難のための移動そのものが危険であると判断される場合には、付近の頑丈な建物の2階以上の部分などに避難し安全を確保しましょう。自宅内であれば、崖や斜面から離れた部屋や2階の部屋などに避難しましょう。

マイ・タイムライン(防災行動計画)を作成しましょう

マイ・タイムラインとは住民一人ひとりのタイムライン(防災行動計画)です。台風等の接近による大雨によって河川の水位上昇や土砂災害が予想される時に、自分自身がとる標準的な防災行動を時系列的に整理し、自ら考え命を守る避難行動のための一助とするものです。実際にタイムラインを作成する簡単な流れを紹介します。

ステップ1 自分の住む地域の災害リスクについて知りましょう

ハザードマップなどからお住いの地域における浸水想定区域や土砂災害警戒区域、合わせて避難施設への避難経路や移動方法についても確認しましょう。

ステップ2 災害情報、避難指示の取得方法と活用法を考えましょう

災害の状況は時間の経過とともに変化していきます。

変化する状況をいち早く入手し、防災行動を行えるよう情報の取得方法について考えどのような情報が発表されたら避難を開始するのか、確認しておきましょう。

ステップ3 実際に災害が発生した際にどう行動するか考えましょう

実際に災害が発生すると想定して、災害の発生する前、災害情報が発表された時、災害が発生した時など時系列的にとるべき防災行動を考え、確認しておきましょう。

マイ・タイムラインの作成例

時間経過	災害状況	防災行動
台風直撃 3日前	警戒レベル1 台風接近	テレビやインターネット等で台風の進路や規模について確認する。
台風直撃 1日前	警戒レベル2 雨風が強まる	付近の川の上流部の雨量、水位を調べる。
台風直撃 半日前	川の水位が上昇	避難する際に必要となる物を用意する。
災害発生注意報	河川敷施設の水没 氾濫の危険性が増す	避難しやすい服装に着替える。 高齢の方、障がいのある方は避難を完了させる。
災害警報	川の水位が危険域に	全員で安全な場所へ避難する。
河川の氾濫 災害発生	河川が氾濫する	避難を完了している。

※さらに詳しい内容については、国土交通省のホームページに掲載されています。
ご家族と一緒に確認し、考えてみましょう。

国土交通省 マイ・タイムラインのページ

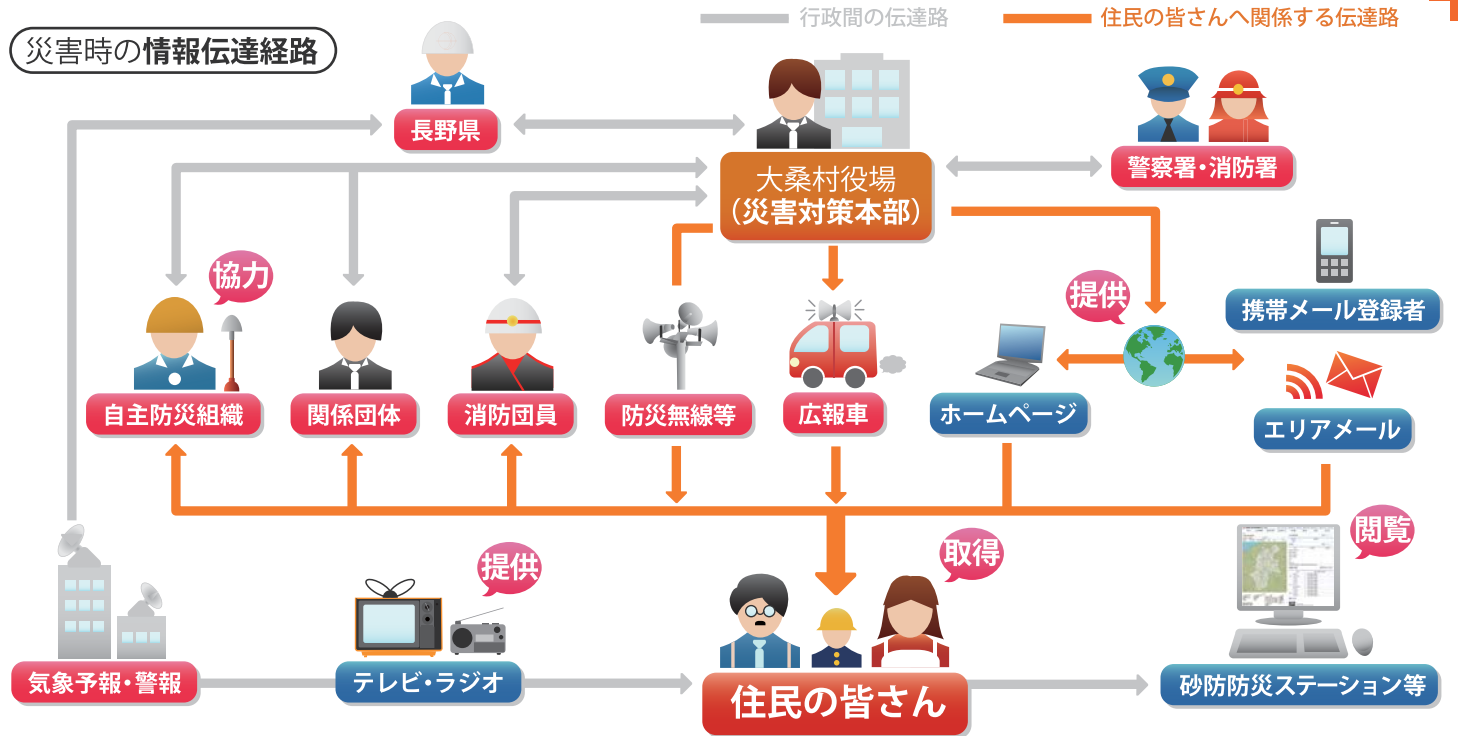
URL <https://www.mlit.go.jp/river/bousai/main/saigai/tisiki/syozaiti/mytimeline/index.html>

情報伝達・取得

災害発生前後の情報取得はとても大事な命綱。
様子が変わと思ったら早めに確認しておこう。



大桑村の災害時情報伝達



災害警戒レベルについて

警戒レベル	災害の状況	皆さんに求める行動
レベル5	緊急安全確保	既に災害が発生している状況であり、命を守るため自宅の上層階や近隣の頑丈な建物へすみやかに移動しましょう。
レベル4	避難指示	予想される災害に対応した指定緊急避難場所等へ速やかに立退き避難を行いましょう。 指定緊急避難場所への避難は危険だと思われる場合には、近隣の安全な場所への避難や、自宅など建物内の少しでも安全な場所へ移動して、安全を確保しましょう。
レベル3	高齢者等避難	避難に時間を必要とする要配慮者（高齢者、障がい者、乳幼児など）とその支援者は指定避難所への避難を開始しましょう。 その他の人は避難準備を整えましょう。防災気象情報などに注意し、自発的に避難を開始しましょう。
レベル2	注意報	避難に備え、避難所や避難経路、避難のタイミング等を確認しておきましょう。
レベル1	早期注意情報	最新の防災気象情報に注意すること。 また災害発生に対して心構えをしておきましょう。

※令和3年の梅雨時期までにこの表に変更になる見込みです。

情報を取得して早めに避難しよう

災害発生の危険や避難が必要な場合には、気象情報、河川情報、避難情報といった様々な情報がテレビやラジオ、防災無線、ホームページ、広報車などにより発信されます。特に、風や雨が強く降っている時には災害情報が伝わりにくい状況も予想されます。重要な情報を逃がさないよう、災害情報に注意し速やかな避難を心がけましょう。

テレビやインターネットから取得する



長野県河川砂防情報ステーション

アドレス PC <https://www.sabo-nagano.jp/res/portal.html>
携 <https://www.mobile.sabo-nagano.jp/m/>

河川砂防情報ステーションのホームページではリアルタイム雨量など災害に関する情報を掲載しています。また便利なメール配信サービスの登録も受け付けています。

- 雨量観測情報
- 雨量予測情報
- 警戒・注意報・土砂災害警戒情報
- 土砂災害危険度
- 土砂災害地図情報



携帯・スマートフォンは、QRコードからもアクセスできます。

災害時の避難状況別村内アナウンス例

本日、〇〇時〇〇分、〇〇地区に対し**高齢者等避難情報**を発令しました。〇〇では、土石流が発生する恐れがあります。避難に時間のかかる方は直ちに〇〇(避難所)へ避難してください。

本日、〇〇時〇〇分、〇〇地区に対し**避難指示**を発令しました。〇〇川が危険水位に達し大変危険な状況です。直ちに〇〇(避難所)への避難を完了するか、近くの安全な建物に避難してください。

ただいま、〇〇時〇〇分、〇〇地区に対し**緊急安全確保**を発令しました。災害が迫り、または災害が発生している可能性があります。自宅の上層階などへ避難し**身の安全を確保してください。**

出典：長野県

避難行動をとる際の判断の参考となる情報

洪水に関する情報 水位情報がある場合	洪水に関する情報 水位情報がない場合	土砂災害に関する情報
氾濫発生情報	(大雨特別警報 (浸水害))	(大雨特別警報 (土砂災害))
氾濫危険情報	洪水警報の危険度分布 (非常に危険)	土砂災害警戒情報 土砂災害に関するメッシュ情報 (非常に危険) 土砂災害に関するメッシュ情報 (極めて危険)
氾濫警戒情報	洪水警報 洪水警報の危険度分布 (警戒)	大雨警報 (土砂災害) 土砂災害に関するメッシュ情報 (警戒)
氾濫注意情報	洪水警報の危険度分布	土砂災害に関するメッシュ情報 (注意)

出典：内閣府

防災の心得

日頃から高めておこう！防災意識。
いざの時あわてず落ち着き避難行動。

→ 日頃の努力が防災の第一歩

災害はいつどこで起こるかわかりません。土砂災害や洪水などの自然現象は人間の手で止めようがないのです。しかし、災害による被害はわたしたちのちょっとした事前予防で最小限に抑えることができます。国や県の砂防、防災事業はもちろんですが、1人ひとりが日頃から危険な箇所を覚えておいたり、家族で集まる避難場所を決めておいたり天気予報や防災情報をインターネットで取得するなど小さいことの積み重ねが災害発生時に尊い命を救う重要なプロセスとなります。

いざという時に備えて

非常持ち出し品リスト

非常持ち出し品は、すぐ持ち出せるようにリュックサックなどに入れ準備しておきましょう。

食料品

- 飲料水 (1人1日3リットルが目安)
- 乾パン・缶詰・レトルト食品
- 粉ミルク・ほ乳ビン



医療用品

- きず薬・痛み止めなどの常備薬
- ガーゼ・包帯・ばんそうこう
- ティッシュ・ウェットティッシュ
- 紙おむつ・生理用品



貴重品

- 現金 (小銭も)
- 預貯金通帳・印鑑
- 免許証・健康保険証

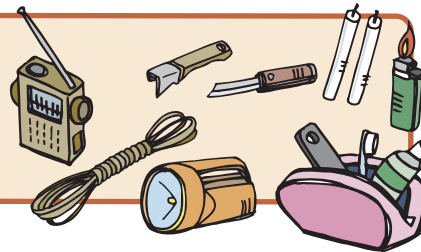


衣類

- 下着・上着
- 軍手・帽子・ヘルメット
- マスク・アイマスク・予備のメガネ

道具類

- ラジオ・電池・懐中電灯
- 缶きり・ナイフ
- ろうそく・マッチ・ライター
- 携帯電話・充電器
- タオル・洗面具
- ロープ・ボール・ジャッキ



非常持ち出し品に関するポイント

- 飲料水と食料は最低1日分、できれば3日分を用意しておきます。
- すぐに持ち出せるものと、あとで取りに来るものなど分けておくことと素早い避難につながります。
- 非常持ち出し品は直射日光の当たらない場所で、玄関・勝手口・車のトランクなどに分散させておきます。
- 外部の人にはわからない、家族が素早く取り出せる場所に保管します。
- 非常持ち出し品は男性で15kg以下、女性で10kg以下を目安にまとめると避難行動がとりやすくなります。
- 1年に1回は点検し、期限のあるものは交換します。

出典：長野県

我が家の非常持ち出し品

→ 各家庭それぞれの持ち出し品を書き留めておきましょう！

家族で話し合おう



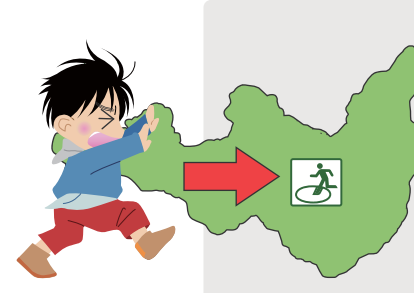
防災において大事なことは、一人ひとりが**防災意識**を持つことです。いざという時のため、日頃から家庭で災害について話し合おう。もし災害が発生したら自分はどうするか、家族をどう守るか、近所の人たちや地域の人々と協力して助け合うことができるかなど**話合うことで命を守**ることができます。**防災は家庭から**が基本です。できるだけ被害を少なくするために、日頃から**防災対策は最大限**行い自分の身の安全、家族の安全、街の安全をみんなで守りましょう。

災害発生前後の情報収集をしましょう



災害が起こる前後はインターネット、テレビ、ラジオなど**災害情報に注意**しましょう。長野県では**河川砂防情報ステーション** (<http://www.sabo-nagano.jp/res/portal.html>) をはじめとする土砂災害などの発生情報や、国土交通省の**川の防災情報** (<https://www.river.go.jp/portal/>) から水位情報を閲覧することが出来ます。雨の量が普段より多い、土砂災害の危険があると感じたら、素早く**災害情報を取得**し自分の地域の状況を把握しましょう。

避難方法、避難経路を覚えておきましょう



いざという時なにを持ち、どのように避難すれば良いかを知っておきましょう。ハザードマップに掲載されている**災害のメカニズムや予兆、それに伴う避難方法や注意点を覚えておく**ことで危険を回避することができます。また、日常生活において**安全に避難できる経路**を知っておくことも防災活動の一環と言えます。災害は常にいつ、どこで、どのように起こるか予測がつかないものだからこそ日頃から考えることが必要なのです。

自主防災組織で地域の防災力を高めよう



地域みんなで協力！助け合いの心が救う尊い命。

土砂災害や洪水などの災害から生命や財産を守るためには、「**自分たちの地域は自分たちで守る**」という気持ちが大切です。地域ごとに工夫して自主防災組織をつくり役割分担を決めいざという時のために準備しておくことが必要です。

自主防災組織の防災力向上

災害発生直後の人命救助等には、地域の自主的な防災活動が大きな役割を果たします。特に阪神・淡路大震災では近隣の住民の力で多くの人々が捜索され救出されました。

日常の活動

- ▶ 防災訓練などにおいて外国の方や、転入してきた方にも参加を呼びかけ地域とのつながりを深めます
- ▶ 防災マップやチラシを作成して配布し、地域の状況や避難場所について情報を共有しておきます。
- ▶ 地区内の危険箇所を調べ、必要ならば関係者や行政に知らせます。

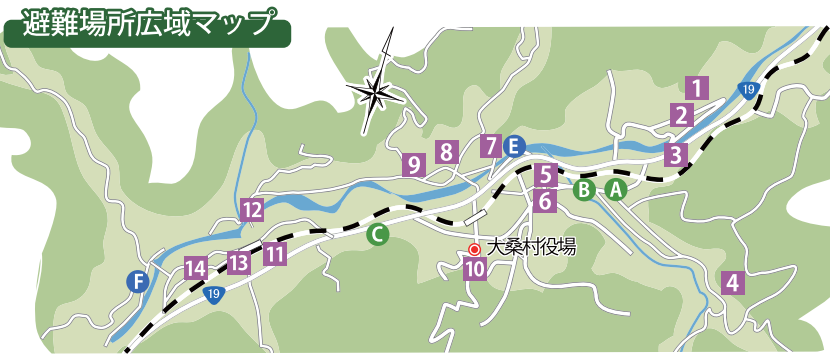


災害時の活動

- ▶ 土砂災害や洪水など発生直後に、決められた役割分担に沿って行動しましょう。
- ▶ 情報の収集と、各家庭への正しい情報の伝達
- ▶ 避難所などへの住民の避難誘導、災害負傷者の救出、救護所への搬送
- ▶ 水や食料、必要な物資などの調達と配分、炊き出しの実施

各避難施設

日頃から確認！
災害時慌てないようにしよう。



一次避難施設

AED 設置施設
 防災無線有り
 発電機配備
 我が家の避難所チェック (いざというときの集合場所に印)

A 橋場分館 (橋場地区一次避難施設)



住所 大桑村須原1425-1 **備考** 我が家の避難所
電話番号 94-9004(IP) **備考** 急傾斜地の崩壊警戒区域内なので、やむを得ない場合の一次避難施設として使用してください。ここから二次避難施設(大桑中学校体育館)に避難します。
建築年度 昭和初期
収容人数 35名

B (株)IHI ターボ敷地内 (橋場地区一次避難施設)



住所 大桑村須原1417 **備考** 我が家の避難所
電話番号 0264-55-2255 **備考** 橋場地区の中でも IHI ターボ近隣住民の一次避難施設です。ここから二次避難施設(大桑中学校体育館)に避難します。
建築年度 昭和37年
収容人数 452名

C 道の駅大桑 (野尻地区一次避難施設)



住所 大桑村野尻160-27 **備考** 我が家の避難所
電話番号 0264-55-4192 **備考** 土砂災害警戒区域内及び急傾斜地の崩壊警戒区域が隣接しているため、やむを得ない場合の一次避難施設として使用してください。ここから二次避難施設(野尻地区館・大桑小学校)に避難します。
建築年度 平成6年
収容人数 110名

福祉避難施設

E 大桑村デイサービスセンター



住所 大桑村殿1014 **備考** 我が家の避難所
電話番号 0264-55-2700 **備考** 避難施設 7 と重複しますが、福祉避難施設として利用できます。特に高齢者・要介護者に必要な設備が整っています。ただし、受け入れ人数に限りがあるので注意してください。
建築年度 平成3年
収容人数 30名 (受け入れ可能人数)

F サンシャインあてら



住所 大桑村野尻931-1 **備考** 我が家の避難所
電話番号 0264-55-1105 **備考** 高齢者・要介護者に必要な設備が整っており、災害が想定される区域に入らない優良な福祉避難施設です。ただし、受け入れ人数に限りがあるので注意してください。
建築年度 平成18年
収容人数 35名 (受け入れ可能人数)

避難施設一覧

使用条件凡例 ● 警戒区域影響範囲外 ▲ 土砂法での警戒区域内 × 浸水想定区域内のため使用不可

1 和村分館

避難対象地区 和村地区



住所 大桑村殿316-2 **備考** 我が家の避難所
電話番号 94-9002(IP)
建築年度 昭和11年
収容人数 50名
備考 道幅が狭いため交通にやや難有り。耐震診断・耐震改修未実施。土砂災害時の使用は注意してください。

使用条件	
土石流警戒区域	急傾斜地警戒区域
▲	●
	-

2 村民体育館

避難対象地区 須原地区全域



住所 大桑村殿1-24 **備考** 我が家の避難所
電話番号 0264-55-1020
建築年度 昭和54年
収容人数 1490名
備考 木曾川警戒水位を超えた場合は、使用ができなくなる可能性があるため注意してください。

使用条件		
土石流警戒区域	急傾斜地警戒区域	木曾川浸水想定区域
●	●	×

3 須原地区館

避難対象地区 須原地区・上郷地区・和村地区



住所 大桑村須原962-2 **備考** 我が家の避難所
電話番号 94-9001(IP)
建築年度 平成18年
収容人数 216名
備考 広さ・設備・安全性は十分、優良な避難施設です。大桑保育園隣接。

使用条件	
土石流警戒区域	急傾斜地警戒区域
●	●
	-

4 伊奈川分館

避難対象地区 伊奈川地区



住所 大桑村長野168-1 **備考** 我が家の避難所
電話番号 94-9003(IP)
建築年度 昭和54年
収容人数 42名
備考 土石流警戒区域内、及び急傾斜地警戒区域が隣接しているため使用には十分注意してください。

使用条件	
土石流警戒区域	急傾斜地警戒区域
▲	▲
	-

5 大島分館

避難対象地区 大島地区



住所 大桑村須原1492-1 **備考** 我が家の避難所
電話番号 94-9005(IP)
建築年度 昭和30年
収容人数 36名
備考 小規模ですが、災害による影響が低い避難施設です。音声告知機が設置されています。

使用条件	
土石流警戒区域	急傾斜地警戒区域
●	●
	-

6 大桑中学校体育館

我が家の避難所

避難対象地区 長野地区全域



住所 大桑村長野891-1
 電話番号 0264-55-3039
 建築年度 平成4年
 収容人数 793名

使用条件

土石流警戒区域	急傾斜地警戒区域	-
●	●	-

備考

広さ・設備・安全性は十分、優良な避難施設です。AEDと大出力ではありませんが、発電機も設置されています。橋場地区の二次避難施設にもなります。

7 大桑村デイサービスセンター

我が家の避難所

避難対象地区 小川・下落地区



住所 大桑村殿1014
 電話番号 0264-55-2700
 建築年度 平成3年
 収容人数 511名

使用条件

土石流警戒区域	急傾斜地警戒区域	-
●	●	-

備考

一部急傾斜地警戒区域に接するため使用には注意してください。

8 殿中集会所

我が家の避難所

避難対象地区 殿中地区



住所 大桑村殿1863-2
 電話番号 94-9035(IP)
 建築年度 昭和53年
 収容人数 24名

使用条件

土石流警戒区域	急傾斜地警戒区域	-
●	▲	-

備考 (殿分館は災害発生時使用不可)

土砂災害時、殿分館使用不可のための代替施設です。急傾斜地警戒区域内あり避難対象地区人数に対して収容人数が少ないので注意してください。

9 殿下集会所

我が家の避難所

避難対象地区 殿下地区



住所 大桑村殿2105-2
 電話番号 94-9036(IP)
 建築年度 昭和58年
 収容人数 46名

使用条件

土石流警戒区域	急傾斜地警戒区域	-
●	●	-

備考 (殿分館は災害発生時使用不可)

土砂災害時、殿分館使用不可からの代替施設で、比較的安全な避難施設です。避難対象地区人数に対して収容人数がやや少ないので注意してください。

10 保健センター

我が家の避難所

避難対象地区 西地区・中地区・弓矢地区



住所 大桑村長野2775-6
 電話番号 0264-55-4003
 建築年度 昭和60年
 収容人数 131名

使用条件

土石流警戒区域	急傾斜地警戒区域	-
▲	▲	-

備考

急傾斜地の崩壊及び土石流警戒区域内のため使用には注意してください。医療設備、室内スペースは十分。高齢者、交通弱者には適した避難施設です。

11 大桑小学校体育館

我が家の避難所

避難対象地区 野尻地区全域



住所 大桑村野尻2099-1
 電話番号 0264-55-2039
 建築年度 平成14年
 収容人数 594名

使用条件

土石流警戒区域	急傾斜地警戒区域	-
▲	●	-

備考

土石流警戒区域内のため使用には注意してください。設備・広さは優良な避難施設といえます。

12 野尻向分館

我が家の避難所

避難対象地区 川向地区・阿寺地区



住所 大桑村野尻589-6
 電話番号 94-9013(IP)
 建築年度 昭和59年
 収容人数 54名

使用条件

土石流警戒区域	急傾斜地警戒区域	木曾川浸水想定区域
▲	●	×

備考

木曾川浸水想定区域内のため警戒水位を超えた場合の使用はできません。

13 野尻地区館

我が家の避難所

避難対象地区 上町・旭町・本町・横町・新田地区



住所 大桑村野尻1435-7
 電話番号 0264-55-2214
 建築年度 平成12年
 収容人数 190名

使用条件

土石流警戒区域	急傾斜地警戒区域	-
▲	●	-

備考

土石流警戒区域内のため使用には注意してください。設備・広さは優良な避難場所といえます。

14 下在郷分館

我が家の避難所

避難対象地区 下在郷地区



住所 野尻 2711
 電話番号 94-9012(IP)
 建築年度 平成26年
 収容人数 189名

使用条件

土石流警戒区域	急傾斜地警戒区域	-
▲	-	-

備考

一部土砂災害警戒区域に接するため使用には注意してください。

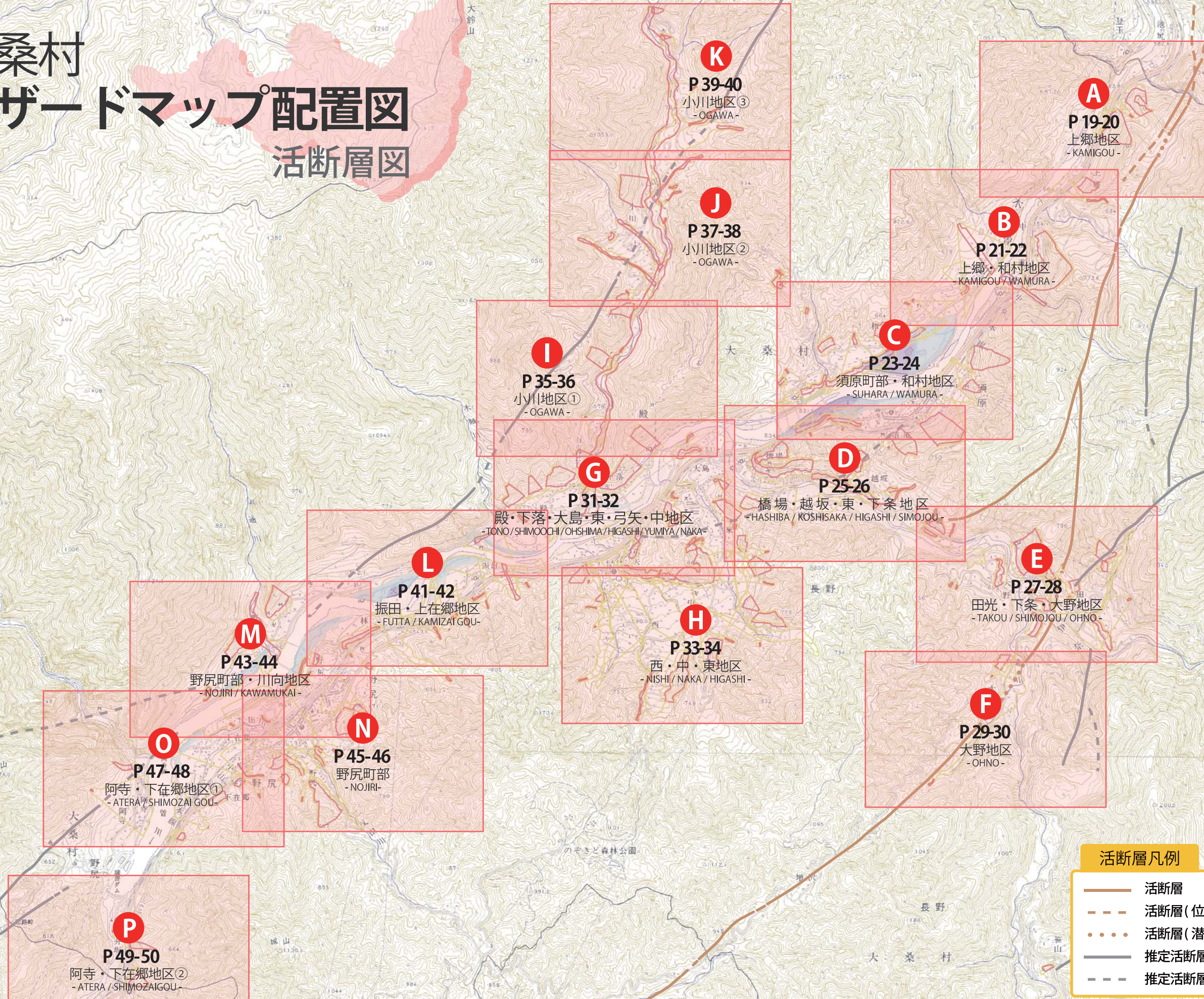
大事です！避難するときの心づかい。

障害を持つ方をはじめ、心身に衰えのある高齢者、乳幼児、長野県の実生活習慣や土地勘に不慣れである人、日本語による情報が理解しにくい外国人は、自力での避難が困難なので周囲からの支援が必要です。災害が発生したときは声を掛け合い、お互い協力しましょう。また要援護者の視点に立って、警報や避難勧告の伝達方法が確保されているか、車椅子で避難経路を通れるか、障害物や段差はないか、要介護者が避難生活を送るのに必要な支援体制が整っているかも確認しましょう。

避難施設での協力

被災者が多く集まる避難施設では見ず知らずの人との集団生活で体調を崩す人もいます。避難施設でできるだけ快適に過ごせるよう皆で協力することが大切です。被災すると普段の半分程度しか力を発揮できません。お互いに支え、人間関係を大事にすることで生きる力が湧いてきます。人と適切な距離をおきながら声を掛け合いましょう。

大桑村 ハザードマップ配置図 活断層図



活断層凡例

- 活断層
- - - 活断層(位置やや不明確)
- 活断層(潜在部)
- 推定活断層(地表)
- - - 推定活断層(地表・位置やや不明確)

大桑災害新聞

大桑村防災のしおり版

古の時代より続く災害との闘い。
時を越え、現代人へ受け継がれる先人たちのメッセージ。

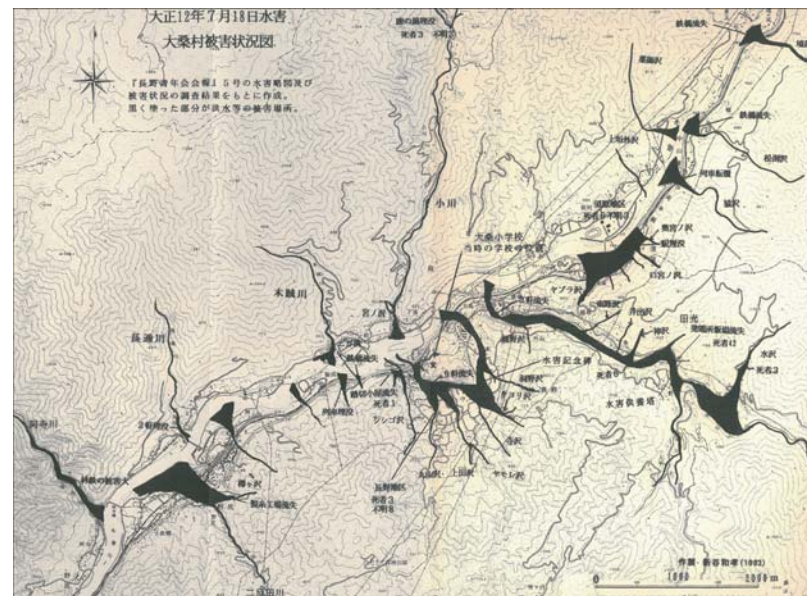
特集 大桑村 土砂災害・洪水害の記録

過去100年間に大桑村で発生した自然災害は木曾川支流の急傾斜地に多く大正12年の大水害、室戸台風、台風10号による被害また集中豪雨によるもの、さらに地震によるものなど大きな被害をもたらしています。このページでは明治以降大桑村で甚大な被害を起こした土砂災害、洪水害を中心に紹介しています。

NEWS.1 大正12年の大水害

志波英夫氏「大桑村の歴史と民話」より

6月下旬より連日の降雨は止む間もなく、7月に入りて野尻、須原の祭礼はいずれも御神輿に雨具をつけ、長野のお盆も雨中で御霊送りをすましたほどであった。
7月18日は早朝より降雨しきり、道路はうみて足跡没すほどなり、午後4時頃より雷鳴を伴い、地響き、加えて「ホソビキ」大の雨も交じりて、夜に入りて物すごし。遂に夜中11時頃より18日3時頃まで大惨事を現出した。



被害状況図

大正12年7月10日頃から降り続いた雨は梅雨の末期的症状による集中豪雨となって大桑村全域を襲いました。ことに17日夕刻から激しさは増し特に長野、須原地区ではバケツの水をぶちあげたような雨、細引をたらしたような大雨に見舞われ、そして18日の未明に至り、ついに山津波が発生し村内全域に大被害が起こり惨状を呈しました。



当時の新聞

特に長野・伊奈川・須原・小川地区では死傷者が出る大災害となり郡下各町村に比べ最も大きな記録的事件となったのです。近隣の上松町や南木曾町、伊那谷の駒ヶ根市周辺などでも同時に水害が発生しています。
この災害は当時の新聞にも大きく取り上げられました。

地理的背景

この災害で特に大きな被害があった長野地区では、1990年代の基盤整備の際に行われた遺跡の発掘調査で、過去水害の際に埋まった生活の跡や水田などが確認されました。大桑村で過去に大きな水害が発生した地理的背景は次のような要因が挙げられます。

- 村の基盤が、風化した花こう岩で水を含むと崩壊しやすい地質である
- 沢の入り口が狭くて奥が深い、鉄砲水が発生しやすい地形である
- 断層などによって形成された急傾斜地が多い地形で、年間降水量も多い

基盤が崩壊しやすい土地では、集中豪雨や地震、火山活動などの自然現象や建設工事などの、人による活動がきっかけとなった土砂崩落がしばしば発生しています。

出典：大正12年の水害記録特集「氾濫」



サヨリ沢、長野東志波宅付近(大正12年7月20日)

被害の概要



弓矢古瀬宅付近(大正12年7月)

	長野地区	須原地区	殿地区	野尻地区	田光発電所
死者・行方不明者	14名	9名	1名	-	50名
重傷者	7名	1名	-	-	-
軽傷者	10名	12名	-	3名	-
流出・全潰家屋	23戸	15戸	1戸	3戸	-
半潰家屋	24戸	16戸	1戸	1戸	-
浸水家屋	92戸	40戸	3戸	40戸	-

出典：大桑村村誌下巻

体験者Sさん(当時13歳)

高等科1年のときだった。当時の消防長が、蛇抜けの元を見に行くといって親父たちが見に行った。シシゴ沢が先に抜けた。役場前に詰所があった。まだ上田沢は抜けていないので橋を渡れた。西のほうは被害がなかった。自分たちは小学校へ避難した。明るくなってみたら・・・どこかで呼ばっているが、どこで呼ばっているかわからなかった。

出典：大正12年の水害記録特集「氾濫」

木曾谷にまつわる蛇抜けの伝承

日本各地に言い伝えられている災害に関する伝説がいくつも存在します。長野県内、木曾谷にもまた蛇抜けの伝説が伝わっています。「蛇抜け」とは大雨などで増水した沢を流れる水が白い蛇のように見えることからそう言われ、それが蛇や龍神などと結びついたとされています。この水害でも田光発電所の工事現場に白い蛇が登場する話が伝わっており、先人たちが現代のわたしたちに災害から身を守るためどうすべきかを警告しているのです。



橋げたが折れた伊奈川橋(大正12年7月18日)

NEWS.2 昭和58年台風10号集中豪雨

台風10号到来、各所に被害

雨量2日で300ミリの超す！やぶら沢60年ぶりに暴れる。

台風10号は木曾谷において、集中豪雨により土砂崩れや河川の氾濫などにより道路や鉄道の線路が埋没、決壊、また住宅の流失や床上、床下の浸水、土砂流入など大きな被害をもたらしました。大桑村内では20日から降り始めた雨は越坂防災雨量計で406ミリ、最大時間雨量は34.0ミリを記録し土砂災害や河川氾濫が相次ぎ床上床下浸水が発生。一時避難者は野尻地区で21世帯73人、長野地区で12世帯38人、須原地区で75世帯207人が学校、集会所などに避難しました。この台風によって須原のやぶら沢が暴れ、人家に被害を及ぼし大正12年の大水害に次ぐ60年ぶりの大水害となりました。

出典：広報おおくわ第116号



やぶら沢県道下



消防復旧作業（小林宅）

消防団の復旧作業

●台風10号による避難状況

地区	組名	避難場所	世帯数	人員
須原	茶屋町 門前上下	学校	52	142
		公民館	23	65
長野	関山 田光 中	民宿	1	26
		集会所	1	5
		個人住宅	1	7
野尻	阿寺 新田 下在	集会所	5	12
		学校	13	50
		個人住宅	3	11

出典：広報おおくわ第116号

活躍したのは身近な消防団
消防団員は延べ384人が出勤。深夜まで雨の中の警戒や応急処置、人家に流入した土砂を取り除くなど多方面で活躍しました。

あの災害を
忘れないために

大正12年の水害記念碑



大正12年の大水害記念碑

大きな災害も変わりゆく時の中で、人々の記憶から薄れていってしまいます。この未曾有の災害を後世まで語り継ぐため大正13年に水害1周年を記念して長野地区の「ヒンマワリ」に水害記念碑(写真：左)が建立されました。昭和43年、中部保育園建設時に位置をわずかに移動させ現在の場所に建てています。水害記念碑背面の碑文は当時の生々しい惨状が刻まれています。また多くの死者・行方不明者を出した田光発電所近くには田光発電所脇水害供養塔(写真：右下)が建てられ、今も人々の記憶に水害の歴史を伝えています。

出典：大正12年の水害記録特集「氾濫」



田光発電所脇水害供養塔

碑文の現代語訳

大正十二年七月十八日真夜中人を苦しめる雨は突然強くなつて午前二時になつた頃には激しく車の軸のような太い雨が降つた。あつたたく山や谷が崩れ激しく濁つた氾濫が私たちの村を襲つた。非常にむごたらしくたちまちにして十人以上の人命が失われた。流されたり壊されたり水に浸かつた家屋は村中ほとんどに及び、田んぼが水に浸かつたり崩れたものは数十町歩であつた。このような類まれな天災は何という惨事であらうか。隣の村々の心温かい友情がこの急を救いそのうち村では仲間たちが励ましあい努力し今では辛うじて復興の糸口につくことができた。ここに碑を建てて各々自らを戒めあわせてこの惨害をのちに伝えるものである。

大正十三年七月十八日

長野区
長野青年会

記念碑背面の碑文

大正十二年七月十八日苦雨遽ニ威ヲ逞フ
シ午前二時ニ至リテ沛然トシテ車軸の如
シ忽ニシテ山谷崩壊激濁氾濫我郷ヲ襲フ
阿鼻叫喚須臾ニシテ人命ノ損セラルルモ
ノ十余家屋ノ流失倒壊浸水殆全郷ニ及ビ
田浦ノ潰破亦数中町歩ナリ稀有ノ天殃何
等ノ惨事ゾヤ隣村紅湖ノ友情ヨク急ヲ救
ヒ爾来郷黨奮励努力今ヤ辛シテ復興ノ緒
ニ着ク茲ニ碑ヲ建テ各々自ヲ戒飭シ併テ
此惨害ヲ後昆ニ傳フト云爾

大正十三年七月十八日

長野区
長野青年会

出典：大正12年の水害記録特集「氾濫」



大正12年の大水害記念碑背面



水害記念碑付近より長野地区を望む



田光発電所脇水害神様

大桑村のみならず、各地で先人たちが体験した教訓を現代に伝えるため残した**記念碑や言い伝え**は、治山・砂防技術が発達した現代もしっかり息づいています。**身近な防災知識**として覚えておくとともに、わたしたちもまた**後世に語り継いで**いかねばなりません。

出典：大桑村村誌上下巻

大桑村災害の歴史年表

明治以降に大桑村で起こった主な災害の年表です。

災害は繰り返し起こります。過去の災害を知ることによってどのようなところが危ないのか、どのように災害が発生しているのか、どの程度の被害を受ける恐れがあるのかなど、過去の災害をひも解くことで今後の防災や災害の予測に役立つ教訓を導くことができます。

明治	15年	1882年	須原・長野に水害発生。田畑が流失
	17年	1884年	木曾川が大洪水。甚大な被害が発生
	22年	1889年	伊奈川水害が発生し、田畑が流失
	37年	1904年	(4月11日)大雨、木曾川洪水で村内3戸倒潰
	44年	1911年	台風による被害発生
大正	45年	1912年	暴風雨のため大桑橋消失
	12年	1923年	(7月18日)大豪雨により大桑村内各地で大正12年の大水害(蛇抜け)が発生
昭和	9年	1934年	室戸台風により御料林被害
	16年	1941年	(5月5日)須原共栄社堤防破壊
	28年	1953年	(7月20日)風水害で大被害を受ける
	28年	1953年	(10月15・16日)豪雨被害
	34年	1959年	(9月27日)伊勢湾台風
	36年	1961年	(6月)集中豪雨
	36年	1961年	(9月16日)第2室戸台風により伊奈川、橋場、須原地区被害甚大
	39年	1964年	台風20号による被害3億6300万円
	41年	1966年	(7月8日)豪雨により桑園耕地被害
	46年	1971年	(9月)台風による被害
	47年	1972年	(7月)集中豪雨災害
50年	1975年	(7月7日)七夕豪雨による被害2億1000万円	
58年	1983年	台風10号による被害	

出典：大桑村村誌上下巻
大桑村役場

平成	5年	1993年	(7月14日)集中豪雨により松沢沢流出、崩落など79箇所
	18年	2005年	(7月18日)集中豪雨被害による崩落
	25年	2013年	(8月23日)豪雨により蛇抜沢越水。国道、県道へ土砂等流出、床下浸水被害
	29年	2017年	(7月26日)豪雨により蛇抜沢越水。国道、県道へ土砂等流出、床下浸水被害、土砂崩落による阿寺キャンプ場利用者孤立。
令和	30年	2018年	7月豪雨(7月5日)木曾川増水による避難勧告発令【31世帯69名避難】。 (8月16日)集中豪雨により矢垂沢氾濫。 土砂流出により道路寸断。一時伊奈川地区孤立。 (9月4日)台風21号の豪雨により大桑橋落橋。 殿地区断水。避難勧告発令【37世帯78人避難】。村内各地で倒木被害。
	2年	2020年	7月豪雨(7月8日)大雨特別警報発表。避難勧告発令【61世帯111名避難】

出典：大桑村村誌上下巻
大桑村役場

● 近年の災害について

近年において、大桑村内でも数々の災害が発生しています。災害は過去のものではなく、今現在も身近に迫るものとして捉え、自分はもちろん身近な人の命を守るために、過去現在の災害から未来の災害への備えを考える機会としましょう。



平成30年 集中豪雨による矢垂沢氾濫



平成30年 台風21号による大桑橋落橋

出典：大桑村役場

わが家の防災メモ

いざ！という時すみやかな避難と安全を確かめ合うために記入しておきましょう。

わが家の避難所

離ればなれになったときの集合場所



代表者氏名

住所

電話番号

緊急連絡先

➤ 家族の連絡先

氏名	連絡先や住所(職場など)	電話番号	携帯電話番号	年齢	性別	血液型

➤ 親せき・知り合いの連絡先

氏名	住所	電話番号	携帯電話番号	備考(関係など)

火事・救急 **119** | 警察 **110** | 災害伝言ダイヤル **171**

☎ 災害伝言サービスの使い方 **171** 災害時 覚えておこう！声の伝言板。

🗣️ 伝言の録音方法 **171** をダイヤル 録音の場合… **1**

STEP.1 音声ガイダンス STEP.2 STEP.3

👂 伝言の再生方法 **171** をダイヤル 再生の場合… **2**

被災地の電話番号を市外局番からダイヤルしてください

(000)-△△△-□□□

出典：NTTのHP

水位・雨量・土砂災害に関するホームページ



●長野県河川砂防情報ステーション
(PC) <https://www.sabo-nagano.jp/>
(SP) <https://www.sabo-nagano.jp/sp/>
(携) <https://www.sabo-nagano.jp/m/>
左のQRコードより災害情報メールを登録しよう！

●(国土交通省)川の防災情報
(PC) <https://www.river.go.jp/portal/>
(SP) <https://www.river.go.jp/s/>
(携) <http://i.river.go.jp/p/>
●長野県地方気象台
(PC) <https://www.jma-net.go.jp/nagano/>

●大桑村防災のしおりはすぐに持ち出せる場所に置いておきましょう。